

# 漸く歩けた幌尻岳

S43 卒（工業 3 回生） 渡辺五郎

幌尻岳の登山口となる平取町豊糠にあるとよぬか山荘は旧平取町立豊糠小中学校の校舎を利用して幌尻岳を目指す登山者の宿泊施設であり、校舎の広場から北電専用道の第 2 ゲート前に向かうシャトルバスの発着場所でもある。

4 年前に幌尻岳を目指し、このとよぬか山荘に宿泊したことがある。北海道には梅雨が無いと信じ 7 月下旬に計画、仙台から苫小牧にフェリーで着いたら強い雨が降り続きとよぬか山荘に着いた頃は降り止んだが宿泊客は私だけ、キャンセルがあったと聞く。額平川は増水し翌朝のシャトルバスは運行中止となり山行場所を変更、アポイ岳、雌阿寒岳を歩きトムラウシ山に向かった。

3 年前は 6 月に白内障の手術で有給休暇を使ったので夏の山行を中止とした。翌年に再び幌尻岳を目指してとよぬか山荘、シャトルバスと幌尻山荘の予約を済ませたが新型コロナウイルスの感染拡大が始まりシャトルバスと山荘の運営側から 5 月入り「今年のそれぞれの運営は中止」の知らせがメールで届いた。昨年も早々と山荘やシャトルバスの予約を済ませたが、同じ様に感染拡大で運営中止のメールが再び届いてしまった。

そして今度こそはと予約受付開始の 12 月 15 日を待ち 7 月 24 日からのスケジュールでとよぬか山荘、シャトルバスと幌尻山荘の予約を済ませた。

7 月 24 日（晴れ）

苫小牧港に着き買い出しと昼食を済ませ移動、とよぬか山荘にチェックイン。以前は夕食と朝食のおにぎりは事前に予約する事で可能であったが今年からは自炊なのだ。

宿泊客は単独が 3 名、石川県から来たご夫婦、親子連れと私の 8 名の他、下山した 1 グループであり明日午前 4 時のバスに乗車する人たちは早々と食事を済ませていた。

7 月 25 日（快晴）

午前 4 時になると外はすっかりと明るい、私以外は皆乗車し山荘は静かになる。一番のバスが戻って来たが同室だった人が帰って来た。理由を聞くと体調が悪いとの話、秋にも予約を入れているので再び来たいと話していた。

二番のバスは 8 時発、ガイド 2 名と客 7 ～8 名のツアーグループがやってくる。バスは 2 台運行で 2 台目のバスは私一人だけ、運転手とあれこれ話をする。入山口の第 2 ゲートでバスを降りる。ここには下山に時間がかかり最終バスに乗り遅れても良いようにプレハブの建物があり安心だ。

9 時前に歩き出し幌尻山荘に向かう。北電の林道をブヨに悩まされながら 2 時間近く歩くと北海道電力の取水ダムが現れた。



北電の取水ダムが現れる

ここから額平川の右岸を暫く進むと岩場の巻き道が現れ、額平川に入る。



ここから額平川の渡渉が始まる

いよいよ渡渉の繰り返しが始まる。幸い深い所で膝上、ストックを使いなが重に進む。

30代の頃、無雪期は丹沢等各地の沢登り楽しみ黒部の上ノ廊下を黒四ダムから歩いた頃を思い出す。2時間近い沢歩きを終えると額平川の左岸にブナの木で囲まれた幌尻山荘が目に入る。



渡渉を終えると左岸に立つ幌尻山荘に到着

午後1時25分に幌尻山荘着、夕方まで山荘の前でのんびりと過ごす。5時を過ぎた頃から山頂を目指した人たちが降りてきたが皆疲れた様子、6時近くになり親子ずれが到着しお父さんは山荘前のブルーシートに仰向け姿になってしまった。

沢水を煮沸して明日の飲み水の準備、しっかりと夕食を済ませ床に就く。

7月26日（晴れ）

午前3時45分、林の中は暗いのでヘッドライトを使い歩き始める。山荘から山頂を目指すのは私が一番、単独なので熊鈴を鳴らしたり、時々ホイッスルを吹いたりして「ここに人がいるぞ！」と分かるように音を出しながら登りを続ける。登りに夢中でそれを忘れるようになる。今まで北海道の山でヒグマに襲われた登山者の話は多く聞いてはいないのだ。



北カール、獣道がありエゾシカの姿を見る

2 時間近く歩くと稜線に上がる。この稜線は幌尻岳にある 3 つのカールの一つ、北カールの縁になり森林限界を超えて冷風を受けながら、花の咲く中を歩くようになる。カールの中ではエゾジカの群れが草を食べながら獣道を移動している。ヒグマの姿を探すが見当たらなかった。

7 時 50 分、漸く 4 年前から目指していた日高の最高峰、幌尻岳山頂に到着する。



幌尻山荘からは私は一番で山頂着

好天に恵まれて大雪の山々から遠く雲の上に羊蹄山が見えるが他の山名は残念ながら判らない。山頂一番乗りと考えていたが、すでに新冠側から 4 名到着しており挨拶を交わす。



山頂からの戸蔦別岳、ピパイロ岳方面

長居は出来ない。今日の内に麓に降りなければならないのだ。しっかりと山頂からの眺めを記憶して下山を始める。下りの途中、北カールの稜線で登りのツアーグループに挨拶、さらにその下で石川県からのご夫婦に会う。彼らは余裕ある計画で幌尻山荘に連泊なのだ。



チシマギキョウ



エゾツツジ



幌尻岳を振り返る

幌尻山荘には昼前の 11 時に到着、あまり早く下ると林道でブヨに悩まされるので山荘前の広場で額平川の瀬音と共に 1 時間余りを過ごす。



再び渡渉を繰り返し林道に向かう

再び額平川の中を歩く。そして林道歩き

となり汗をかいた体にブヨの大群がまとわり続ける。バックパックの背あてやウェストベルトは汗がたっぷりなのでそこにもブヨがまとわり付く。午後のせいかな昨日よりも大群のブヨ、ブヨ、ブヨ、蚊取り線香は全く効かない。じっとしていると噛まれるので歩き続ける。



東電専用道第二ゲート

4 時 25 分、第二ゲート着、ブヨを払いながらバスを一人で待つ。意外と山行者は少なく静かな山行であった。

再びとよぬか山荘に泊まり翌日は移動、白老の国立アイヌ民族博物館、ウポポイ（民族共生象徴空間）の見学、樽前山やニセコ mountain を歩き苫小牧からフェリー乗船、計画してから 4 年目の幌尻岳登頂の余韻に浸りながら帰福の途に就いた。

**2022 年 7 月 24～26 日の山行記録**